



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 平和
コード番号 6412 URL <https://www.heiwanet.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 嶺井 勝也
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経営企画グループ (氏名) 小祝 隆 TEL 03-3839-0701
ゼネラルマネージャー
四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	116,253	25.8	28,161	182.8	27,793	181.4	20,506	345.4
2022年3月期第3四半期	92,376	21.4	9,957	437.1	9,876	313.6	4,604	-

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 20,786百万円 (352.9%) 2022年3月期第3四半期 4,589百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	207.92	-
2022年3月期第3四半期	46.68	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	426,682	230,078	53.9	2,332.76
2022年3月期	417,066	217,186	52.1	2,202.00

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 230,078百万円 2022年3月期 217,186百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	40.00	-	40.00	80.00
2023年3月期	-	40.00	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,300	15.4	26,400	157.9	25,900	147.4	18,900	761.7	191.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

当社グループは、業績管理を年次で行っていることから、通期連結業績予想のみを開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期3Q	99,809,060株	2022年3月期	99,809,060株
2023年3月期3Q	1,179,809株	2022年3月期	1,177,527株
2023年3月期3Q	98,630,486株	2022年3月期3Q	98,632,738株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 四半期決算補足説明資料は当決算短信開示後速やかに当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

遊技機業界におきましては、2022年11月より導入されたスマートパチスロ（以下、「スマスロ」）の稼働が好調で、引き続き電子部品不足の影響は懸念されるものの、パチスロ市場は回復の兆しを見せております。そのような環境下、当社は、業界初のスマスロとなる「バキ 強くなりたくば喰らえ!!!」を販売し、販売台数は好調に推移いたしました。市場におけるスマスロの高評価を受け、ゲーム性の幅がより広がったスマートパチンコ（以下、「スマパチ」）への期待も高まっております。スマパチについては、2023年4月以降に販売されることが日本遊技機工業組合より発表され、当社も新機種「ルパン三世 THE FIRST」の販売を予定しております。

ゴルフ業界におきましては、直近で寒波の影響はあったものの、例年より梅雨の期間が短く全国的に天候に恵まれたことに加え、近年の旺盛なゴルフプレー需要に支えられ、来場者数は好調に推移いたしました。また、顧客単価については、前年の緊急事態宣言の再発出、まん延防止等重点措置に伴うアルコール提供の自粛、コンペの減少等による下落から回復傾向となりました。しかしながら、資源高や原材料高騰等に伴う物価上昇の影響により、コスト面の増加が懸念されるためその推移を注視する必要があります。

このような経営環境下、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高116,253百万円（前年同期比25.8%増）、営業利益28,161百万円（前年同期比182.8%増）、経常利益27,793百万円（前年同期比181.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益20,506百万円（前年同期比345.4%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(遊技機事業)

遊技機事業におきましては、パチンコ機は「戦国乙女 LEGEND BATTLE」、「ルパン三世 消されたルパン2022」等を発売し、販売台数61千台（前年同期比21千台増）、パチスロ機は「バキ 強くなりたくば喰らえ!!!」、「BIG島唄30」等を発売し、販売台数44千台（前年同期比21千台増）となりました。

売上高は、パチンコ機、パチスロ機ともに販売台数及び販売価格が前年同期に比べ増加、上昇したことに加え、スマスロ第一弾となる「バキ 強くなりたくば喰らえ!!!」の販売が好調に推移したことにより、前年同期に比べ大幅に増加いたしました。利益面は、パチンコ機、パチスロ機の販売台数の増加、売上原価の低減、及び前期実施の希望退職制度による人件費圧縮により、前年同期比で大幅に増加いたしました。

以上の結果、売上高43,382百万円（前年同期比77.2%増）、営業利益15,140百万円（前年同期は営業損失1,666百万円）となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、2022年10月にPGM石岡ゴルフクラブでJGTOツアートーナメント「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」を3年ぶりに開催いたしました。また、お客様の満足度向上及び競合他社との差別化を図る施策として、「withGolf」の拡充と女性をターゲットとしたPGM WEBサイト「ANGEL GOLF」をリニューアルいたしました。M&Aでは、「PGM御殿場カントリークラブ（旧名称：足柄森林カントリー倶楽部）」が2022年12月よりPGMグループの新規ゴルフ場として運営を開始いたしました。

ゴルフ事業の業績は、高まるゴルフプレー需要に応じた価格設定により顧客単価は回復傾向にあり、また、全国的に天候に恵まれたことにより引き続き来場者数が好調に推移したことに加え、前年に取得したゴルフ場が貢献し、売上高、利益面ともに前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、売上高72,871百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益15,167百万円（前年同期比13.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

総資産は、前連結会計年度末に比べ9,615百万円増加し、426,682百万円となりました。現金及び預金が1,435百万円減少する一方、有価証券（投資有価証券含む）が4,119百万円、受取手形及び売掛金が3,216百万円、電子記録債権が1,528百万円、新規ゴルフ場取得により土地が1,189百万円増加しております。

(負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ3,275百万円減少し、196,604百万円となりました。長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が3,932百万円減少しております。

(純資産の部)

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の組み入れにより利益剰余金が20,506百万円増加する一方、剰余金の配当により利益剰余金が7,890百万円減少したこと等により、前連結会計年度末より12,891百万円増加し、230,078百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の52.1%から53.9%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表した2023年3月期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2023年2月8日)別途開示いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,250	40,815
受取手形及び売掛金	7,561	10,778
電子記録債権	1,080	2,608
有価証券	24,801	27,538
商品及び製品	2,365	2,509
原材料及び貯蔵品	7,345	8,450
その他	7,696	7,926
貸倒引当金	△272	△273
流動資産合計	92,828	100,353
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	64,811	64,053
土地	215,307	216,497
その他（純額）	12,332	13,240
有形固定資産合計	292,451	293,790
無形固定資産		
のれん	5,748	5,714
その他	4,493	4,217
無形固定資産合計	10,242	9,931
投資その他の資産		
投資有価証券	8,238	9,620
その他	13,601	13,204
貸倒引当金	△296	△217
投資その他の資産合計	21,543	22,607
固定資産合計	324,238	326,329
資産合計	417,066	426,682
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,704	2,884
電子記録債務	7,224	9,773
1年内返済予定の長期借入金	29,543	20,033
未払法人税等	3,639	2,926
引当金	892	667
その他	22,252	21,733
流動負債合計	67,257	58,017
固定負債		
長期借入金	83,103	88,680
退職給付に係る負債	5,278	5,397
その他	44,240	44,508
固定負債合計	132,622	138,586
負債合計	199,880	196,604

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,755	16,755
資本剰余金	54,863	54,863
利益剰余金	146,922	159,539
自己株式	△1,346	△1,351
株主資本合計	217,194	229,806
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	310
退職給付に係る調整累計額	△49	△38
その他の包括利益累計額合計	△7	271
純資産合計	217,186	230,078
負債純資産合計	417,066	426,682

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	92,376	116,253
売上原価	65,419	72,043
売上総利益	26,957	44,209
販売費及び一般管理費	16,999	16,048
営業利益	9,957	28,161
営業外収益		
受取利息	83	52
受取配当金	42	81
投資有価証券売却益	—	4
受取保険金	74	127
売電収入	99	116
固定資産売却益	120	118
その他	392	285
営業外収益合計	813	785
営業外費用		
支払利息	299	289
有価証券償還損	55	—
支払手数料	185	256
固定資産除却損	92	264
その他	261	343
営業外費用合計	894	1,154
経常利益	9,876	27,793
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
特別損失合計	—	—
税金等調整前四半期純利益	9,876	27,793
法人税等	5,271	7,286
四半期純利益	4,604	20,506
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,604	20,506
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20	268
退職給付に係る調整額	5	10
その他の包括利益合計	△15	279
四半期包括利益	4,589	20,786
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,589	20,786

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減したうえで、法定実効税率を乗じる方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額 (注)2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	24,482	61,548	86,031	—	86,031
一定の期間にわたり移転される財	—	6,345	6,345	—	6,345
顧客との契約から生じる収益	24,482	67,893	92,376	—	92,376
外部顧客への売上高	24,482	67,893	92,376	—	92,376
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1	1	△1	—
計	24,482	67,894	92,377	△1	92,376
セグメント利益又は損失(△)	△1,666	13,405	11,738	△1,781	9,957

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,781百万円には、セグメント間取引消去4百万円及び配賦不能営業費用△1,786百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	43,382	66,375	109,757	—	109,757
一定の期間にわたり移転される財	—	6,495	6,495	—	6,495
顧客との契約から生じる収益	43,382	72,871	116,253	—	116,253
外部顧客への売上高	43,382	72,871	116,253	—	116,253
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1	1	△1	—
計	43,382	72,872	116,255	△1	116,253
セグメント利益又は損失 (△)	15,140	15,167	30,308	△2,147	28,161

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,147百万円には、セグメント間取引消去3百万円及び配賦不能営業費用△2,151百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。